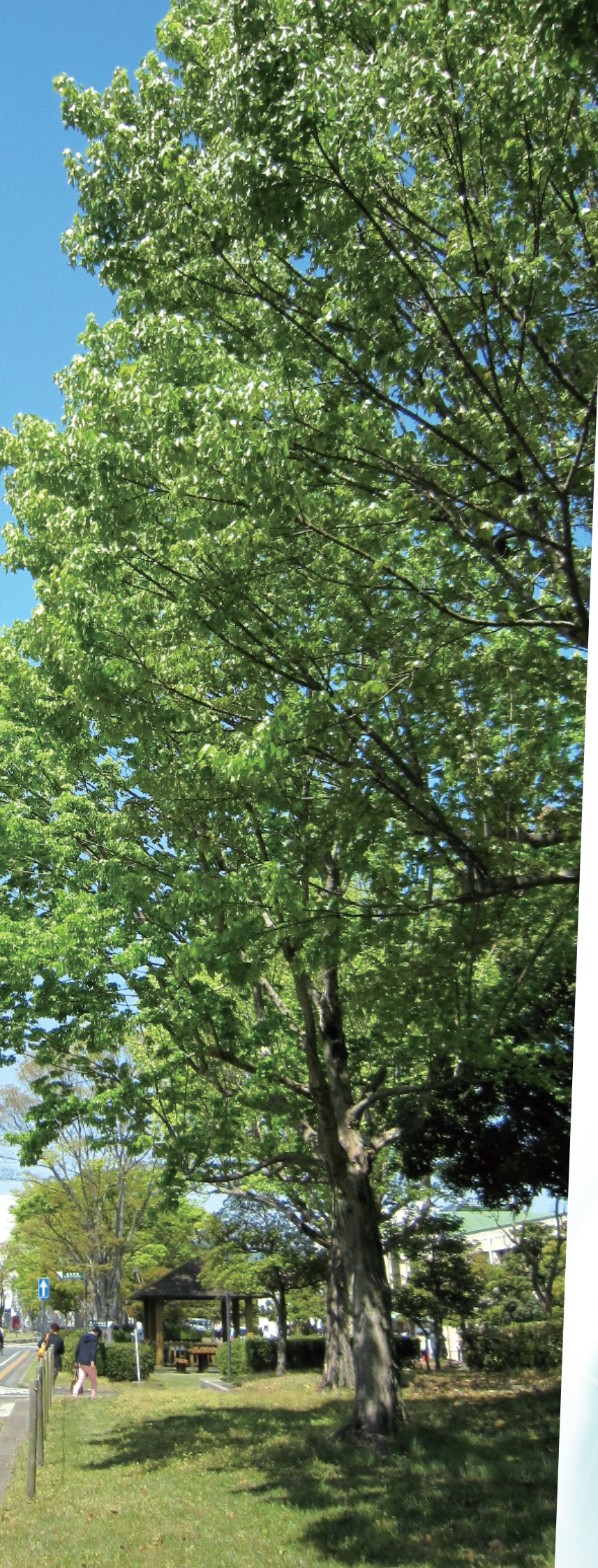




明日の山口大学ビジョン

地域とともに 時代とともに

維新の息吹を今山口から世界へ



2015

創基200周年を経て、 2025年には Diversity Campusへ

山口大学は、1815年、現山口市に長州藩士・上田鳳陽先生により創設された私塾「山口講堂」を創基とし、2015年は200周年という節目の年に当たります。この間、本学は総合大学へと発展し、学都山口の人材育成に貢献するとともに地域や世界で活躍する多くの人材を輩出し、先端的研究成果をあげてきました。

そして今、地域の基幹総合大学として、さらなる教育・研究の発展・充実を目指しつつ、地域に根ざした社会連携を進め、明治維新発祥の地に根づく「挑戦と変革の精神」を受け継ぎ、アジア・太平洋圏において独自の特徴をもつ大学へと進化しています。

本学は、国立大学法人化を契機に「山口大学憲章」を制定し、その基本理念に基づき、2008年には「明日の山口大学ビジョン」を策定、公表しました。来る2015年度は第2期中期目標期間の最終年度であり、引き続き第3期中期目標・中期計画を策定する必要があることから、新たに「明日の山口大学ビジョン2015」を策定することとしました。

今、大学は少子高齢化や社会経済状況の変化を踏まえた機能強化が強く求められています。大学がこれまで以上に社会の発展に貢献するために、グローバル化、イノベーション、ガバナンス改革、地域貢献などの具体的な取り組みと組織改革を実行することで、地域再生の原動力、ひいては日本再生の拠点となることが期待されています。

本学は、10年後の2025年に向けて、大きなグローバル化の波や多様性を見据え、留学生を含む全ての大学人と地域の人々とが、互いの歴史・文化・民族・言語・宗教など、多様性を許容し、新たな価値観を創造する、アジアの風を感じる「ダイバーシティ・キャンパス」の創造を目指します。

山口には中世以降、貿易や人的交流を通じて海外からの文化を積極的に取り入れようとする気風と、現状に問題意識を持ち、自ら主体的に行動することにより改革を成し遂げようとする強い志「維新マインド」があります。これらを源とし国籍を越えて持続的に発展するアジア地域（サステナブル・アジア）を支え、日本発イノベーション（イノベーション・ジャパン）を生み出すグローバル人材を育てます。

さらに、従来型の専門分野だけでなく、文理融合を始めとして、様々な学問領域の融合や社会との関係強化に努め、産学公連携のもとでキラリと光るオンリーワンの研究を推進し、世界的な研究拠点形成を目指します。

「教育」、「研究」、「地域連携」及び「グローバル化」のそれぞれの視点から、新たな「明日の山口大学ビジョン2015」を示し、学長のリーダーシップのもと、10年後の2025年に向かって、全学の教職員・学生が一丸となってその実現に努め、地域社会と連携し求められる大学として発展し続けます。

2015年3月



山口大学憲章

(2007年2月15日制定)

はじめに

山口大学は、1815(文化12)年、長州藩藩士・上田鳳陽によって創設された私塾・山口講堂を前身とし、明治・大正期の学制を経て、1949(昭和24)年には、平和と繁栄を願い、地域における高等教育および学問研究の中核たる新制大学として創設されました。そして2004(平成16)年、国立大学法人山口大学が設置する国立大学となりました。

いま、新たな大学づくりに踏み出すにあたり、ここに「山口大学憲章」を掲げ、学生・教員・職員の三者が一体となって、理念の共有と目標の実現をめざします。

I 基本理念

1 「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」の創造

私たち山口大学は、21世紀の多様な課題を「発見し・はぐくみ・かたちにする」、豊かな「知の広場」を創り出します。私たち山口大学は、この「知の広場」において、自らの役割と実績とを不断に評価しつつ英知の創造をめざします。

2 共同・共育・共有精神の涵養

私たち山口大学は、共に力を合わせ、共に育み合い、共に喜びを分かち合います。この共同・共育・共有の精神を“山大スピリット”として涵養します。

3 公正・平等・友愛の尊重

私たち山口大学は、“山大スピリット”による他者への配慮と自らを律する倫理観のもとに、あらゆる偏見と差別を排し、公正と平等と友愛の精神を尊重します。

II 教育の目標

1 専門性と社会性の育成

私たち山口大学は、地域の基幹総合大学として、各学部・研究科の特性を活かし、個性あふれる専門性と社会性に富んだ人材を育みます。

2 自己啓発・自己研鑽・自己管理の徹底

私たち山口大学は、自己啓発・自己研鑽に努め、自己管理能力を身につけた人材を育みます。

3 知識社会に応える能力の醸成

私たち山口大学は、地域社会及び国際社会の発展と平和の実現に貢献するために、21世紀の知識社会における課題探求と問題解決の能力を持った人材を育みます。

III 研究の目標

1 先進的な研究を社会に還元

私たち山口大学は、基礎的・学術的研究および社会が直面する課題の克服と解決に役立つ研究を重視し、総合大学の特性を活かし、先進的かつ長期的な視野に立った研究を進め、その成果を社会に還元します。

2 学際的な研究体制の構築

私たち山口大学は、人文科学、社会科学、自然科学、生命科学などの学問分野の独自性を尊重しながら、これら諸分野の連携を通して、21世紀の時代にふさわしい学際的な研究体制を構築します。

3 研究活動の透明性と説明責任の遵守

私たち山口大学は、研究者相互の交流を基盤に、山口大学を主体とする共同研究体制を構築します。その研究過程と研究成果は広く社会に発信し、説明責任を果たします。

IV 私たちの責務

1 新たな価値の創出

私たち山口大学は、人間と人間、人間と自然、人間と科学とが調和する新たな価値の創出をめざします。

2 社会が抱える問題解決への寄与

私たち山口大学は、20世紀の時代が繁栄と豊かさをもたらす一方で、自然環境の破壊や貧困・飢餓・戦争など、多くの社会問題が表出した時代であったことを認識し、21世紀の今日にあっては、これらの矛盾の解決のために英知と勇気を役立てます。

3 地域社会の発展と国際社会への貢献

私たち山口大学は、心豊かな教養人と優れた専門的知識・技術を持った人材を育み、地域社会の発展と国際社会の平和に貢献し、人類の幸福に寄与します。

Future YAMAGUCHI UNIVERSITY vision 2015

「志」つなぎ伝える二百年



教 育

学生とともに成長する

社会が求めるグローバル人材の育成

山口大学は、教育理念に掲げる“発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場”を創出し、さらに全ての大学人が、地域や世界の人々とのあらゆる垣根を越えて多様性を許容し、共同・共育・共有の精神である“山大スピリット”を持って成長し続ける大学を目指します。そのため、社会の期待に応えるべく質の保証された国際通用性のある教育を展開し、常にその改善と充実に努めます。そして、この“知の広場”にて「課題解決力」、「自己研鑽力」、「チャレンジ精神」などの「人間力」を備え、「国際理解力」と「高い専門能力」を持ち、イノベーションを生み出すことができる人材を育成します。

大学教育の根幹をなす 学士課程教育

○地域社会や国際社会で活躍するグローバル人材の育成

- ・教養教育から専門教育まで本学の強みを活かした一貫した学士課程教育を行い、学生と教職員が互いに高め合う環境の中で、創造性豊かで幅広い視野と柔軟な発想を養い、社会で活躍する「山口大学ブランド」の人材を育成します。
- ・教育の国際化により、グローバルマインドを持ち、公正・平等・友愛の精神に富む人材を育成します。
- ・国際水準の教育を推進し、地域から世界までを見据えたグローバルな社会に貢献できる人材を育成します。
- ・全学生に知的財産教育を行うことにより、社会におけるそれぞれの分野での知的財産に関する基盤強化に貢献できる人材を育成します。

○時代の変化に柔軟に対応した教育環境と教育方法

- ・学生の修得した能力を数値化する本学独自の評価方法の導入により、学修成果可視化モデルを構築し、学生の学びを保証します。
- ・アクティブ・ラーニングを積極的に推進し、課題探求・解決学習、実践的教育を通して学生の主体的な学びを推進します。

- ・ポートフォリオの充実を図り、学生の学修行動、学修履歴、学修成果を可視化し、教学IR(Institutional Research)機能と連携させ、また、高度専門職(UEA:大学教育アドミニストレータ)を登用して教学マネジメント力を強化します。
- ・教職員の能力開発や、TA(ティーチングアシスタント)を含む教育支援者の能力養成のため、FD・SD研修の充実を図り、多様な学生への支援体制を強化します。

専門性と国際性溢れる大学院教育

○専門性と社会性を育む大学院教育の充実

- ・国際社会に通用する大学院教育を行い、学位にふさわしい専門性を有した人材を育成します。
- ・産業界・地域等の社会に開かれ、年齢、性差、国籍等にとらわれない多様な学生と教員による「共育・研究」を推進する教育体制を構築します。
- ・研究倫理教育、知的財産教育を行うことにより、高い倫理観を持つ自立した研究者や高度専門職業人を育成します。
- ・国内外から研究者や大学院生が集まる異分野融合の環境を整備し、新産業を創出できるイノベーション人材を育成します。



- ・東アジア研究科や技術経営研究科における学際領域での実績を活かしてさらに教育内容を充実させ、高度な専門性と社会性を持つ指導的人材を育成します。

○グローバル力を強化する大学院教育の推進

- ・アジアの高等教育機関との連携を進めて海外拠点を整備・拡充し、教職員や大学院学生の国際交流を促進することにより、世界で活躍する高度な人材を育成します。
- ・国際通用性のある教育を提供するため、海外の大学院と国際教育連携による教育プログラムを推進します。

○地域を牽引する基幹総合大学としての大学院教育

- ・地域からの経済産業再生のための人材輩出とイノベーション創出の期待に応え、地域のリーダーとして活躍できる高度専門職業人と研究者を育成します。
- ・地域社会のニーズに対応し、産業界等と協働して本学の教育力・研究力を活用した社会人の学び直しや生涯学習に対応できる大学院教育プログラムを開発し、高度人材養成や成熟社会の形成に貢献します。

■ 人材育成のための学生支援の充実

○学生支援体制の拡充

- ・山口大学創基200周年を契機に創設した「山口大学基金」を拡充し、教育・研究活動の支援はもとより、学生への経済支援や就職支援の充実、並びに地域貢献活動を推し進めます。
- ・障害のある学生の教育を受ける権利を尊重し、充実した学生生活を送れるよう全学的な支援体制を整備し、その支援を通して全ての学生の学びと成長に寄与する教育環境を構築します。
- ・スポーツ・文化活動、ボランティア活動等の正課外活動を大学が組織的に支援することにより、学生の自主的・自律的な学修を促進し社会人を育成します。

○キャリア形成支援

- ・学生のキャリア形成を推進するため、多彩な学習の場を提供し、学生にキャリアの理論の理解と実践力を身に付けさせ、それを自ら継続して高めていくことのできる社会人基礎力を養います。

■ 多様な学生を受け入れるための入試改革

○多様な入学試験の実施

- ・高等学校教育で育まれた総合的な学力を発展・向上させるため、多様な評価方法等を検討し、高大連携を踏まえた入試及びその実施体制の構築に取り組みます。
- ・国籍を問わず多様な価値観や経験、能力を持つ優秀な学生を受け入れるため、入試方法の開発と改善を行います。

■ 本学独自の地域学の構築

○地域学としての「山口学」の構築

- ・山口大学及び山口県（山口）の持つ歴史、文化、自然、環境、産業など様々な地域の特性や課題について、文理融合の視点で検証・研究し再発見することにより、学問的裏付けに基づく本学独自の「山口学」を構築し、教育プログラムや生涯学習等のプログラムとして活用していきます。

Future YAMAGUCHI UNIVERSITY vision 2015

「志」つなぎ伝える二百年



創基200周年

研究

新しい価値を創造する

文系と理系の融合によるイノベーションの創出

山口大学は、中世の大内文化に始まる洗練された伝統と、明治維新以降の革新的な「維新マインド」を背景に、地域の基幹総合大学として各専門分野での研究を極めるとともに、他分野や学外・国外の研究者との交流・連携を深め、新たな研究シーズを創出し、時代や地域が求めるニーズや課題に応える研究を推進します。研究成果の社会還元を目的に、科学技術イノベーション創出をリードし、文系と理系が融合する新たな研究や学問分野の創成を目指します。

Ⅱ 世界をリードする研究拠点形成

○国際研究拠点の形成

- ・大学発の独創的な研究の育成を通して、世界の学術研究をリードする研究拠点を形成します。すなわち、世界でも唯一の「時間学研究所」を国際的研究拠点に育成するとともに、特徴的な研究推進核である再生医療研究、中高温微生物研究等を中心に、新たな大学附設の「研究センター」の設置を推進します。
- ・国際的な研究者交流や共同研究を軸とし、国際共著論文数の増加を図るとともに、国際学術雑誌の刊行など、研究活動の発信力を強化します。

○地域発イノベーションの創出

- ・地域の課題・ニーズを的確に把握するために、「先進科学・イノベーション研究センター」を、オープン・イノベーションを展開する場とし、産業界・官公庁・金融界との連携・人材交流による地域発の科学技術イノベーションを推進します。
- ・地域企業との連携強化を視野に入れた「国際・地域連携研究戦略」を策定し、グローバルに活躍できるイノベーション人材の育成・地域企業への就職や地域企業の国際展開を支援します。

○個性的研究の促進

- ・個々の研究者が個性を発揮し、かつ相互の連携を図りうる自由な研究環境を育み、研究の多様化を推進します。
- ・研究者個人の能力の向上を長期的・計画的に捉え、学問分野間の歴史や文化の違いや関連に配慮した適切な支援体制の構築を進めることで、個性的な研究の開花を促します。

Ⅲ 研究基盤の充実

○研究基盤の継続的な強化

- ・研究基盤の充実を目指し、従来の「施設及び設備のマスタープラン」を見直し、計画的かつ継続的に施設・スペース・設備機器等を充実・強化するとともに、学内外への有効活用を推進します。
- ・文系から理系までの幅広い分野における、多様な研究を支える学術図書や情報ネットワークなど、学術情報基盤の整備を計画的に推進します。
- ・研究の基盤的資金の確保を支援するシステムを確立し、各研究者が安定して教育研究に専念できる環境を整備します。特に、科学研究費補助金を含む競争的資金の獲得には、大学リサーチアドミニストレータ(URA)や産学コーディネーター(OD)等の研究支援人材を確保し、研究の入口から出口までの幅広い支援体制を構築します。



○若手・女性研究者の育成

- ・研究力の継続的な向上を目的として、独自のテニユアトラック制度を整備し、優れた若手研究者や女性研究者の計画的登用・育成、及び外国人研究者の積極的な受入れを実現します。
- ・将来の学問を担う若手研究者の育成を重視し、研究支援はもとより国内外の研究機関・産業界との人事交流派遣制度の充実を計画的に進めます。

○研究支援人材の確保と研究資金獲得

- ・研究に必要な予算の確保・増強のために、URA や産学CD人材を活用した外部研究資金獲得の戦略的取り組みを展開し、10年後の外部資金（各種競争的資金、大学基金、寄附金等の総体）の倍増を目標とします（H25年度比）。
- ・URA や URA 支援事務職員に代表される研究支援人材を「専門事務職」と捉え、従来の「総合事務職」との連携・交流を進めることにより、研究支援組織の活性化を推進します。
- ・外部資金に付加される間接経費の一部は、研究支援組織の充実に充てるとともに「研究センター」「研究所」の自立化のために投資します。

Ⅱ 研究の多様性の創出

○グローバル研究大学への展望

- ・大内文化をはじめとする伝統と、明治維新以降の革新的な指導者を輩出した「維新マインド」のグローバル展望への意志を背景として、文系と理系が連携する新たな研究や学問分野の創成と国際展開を推進します。
- ・研究の多様性の創出と研究の国際連携を基礎とし、長期的な研究力の強化策としてアジア各国からの優秀な人材を博士課程に入学させるとともに、外国人の教育・研究者として育成し、ノーベル賞級の研究者を輩出するグローバル研究大学の実現を目指します。

○21世紀の課題解決への貢献

- ・地域にある総合大学として独創的な研究を育成する中で研究の多様性を確保しつつ、学長裁量経費による戦略的研究推進プログラム等の取り組みにより、ボトムア

ップ型の特徴的な研究の育成とトップダウン型の研究拠点の形成を推進します。

- ・基礎科学分野の活性化による大学独自のシーズ研究の育成と、地域のニーズを踏まえた産学官連携の研究開発の推進により、21世紀の人類が抱える「課題」解決に繋がる研究を重点的に推進し国際展開します。

Ⅲ 知の拠点としての役割

○地域発展につながる研究交流と人材育成

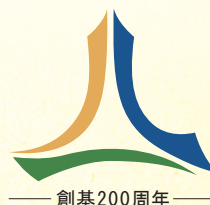
- ・研究活動を通して地域との交流を深め、山口県を中心に北九州や中国、四国を視野に入れた連携により、地域の知の拠点として、新産業創出・雇用創出を牽引します。
- ・地域企業等への学生・留学生のインターンシップ・就職を支援し、地域の活性化と魅力ある地方都市の創生を推進します。
- ・地域社会のニーズや課題・特色を共有し、地方創生のグランドデザインを共同制作する場として、「先進科学・イノベーション研究センター」内等で「交流サロン」を開催し、人材交流による信頼の絆を形成します。

○科学技術イノベーション創出

- ・総合大学として異分野連携の研究（時間学、医工学等）を推進する中で、地域発イノベーションのシーズとなる独自の基礎研究から生まれる「発見」を生かして、知的財産を確保し国内外の産業界・官公庁・金融界との連携により科学技術イノベーション創出を推進します。
- ・技術経営研究科や大学発ベンチャー企業との連携により、実践的なイノベーション人材育成プログラムを開発し、地域発（大学発）ベンチャー企業を連鎖的に創出する仕組みを構築します。
- ・大学発（地域発）ベンチャー企業を支援出来る独自のファウンディング・システムを地域の企業・金融界との連携で構築し、地域発イノベーションの創出を牽引します。

Future YAMAGUCHI UNIVERSITY vision 2015

「志」つなぎ伝える二百年



創基200周年

地域連携

地域社会とともに前進する

地域の『知』の拠点としての機能強化

山口大学は地域の基幹総合大学として、様々な方面で地域と連携・協力し、これまで以上に地域の『知』の拠点としての役割を果たし、「地方創生」を牽引します。

様々な分野で活躍できる人材の養成・育成を地域と進めるとともに、産業振興に寄与し、イノベーションの創出を行うことにより、地元への“人財”の定着の促進を図ります。文化の香りのする地域の実現とともに、高度先進医療の提供、防災や環境に関する研究成果の展開などを通じて安全で安心して生活できる地域の実現に貢献します。

Ⅱ 地域社会の期待に応える活動

○地域の『知』の拠点としての機能強化

- ・地域の課題の解決、地域の『知』の創造と継承を実現するために、「地域未来創生センター」を創設します。
- ・「地域課題の発見」と「地域情報の集積」を行うとともに学内のリソースをネットワーク化し、世界を視野に入れた地域課題解決のためのシンクタンク機能を拡充します。

○地域の教育・文化を牽引

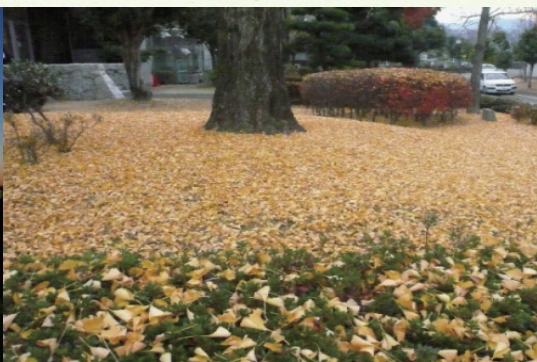
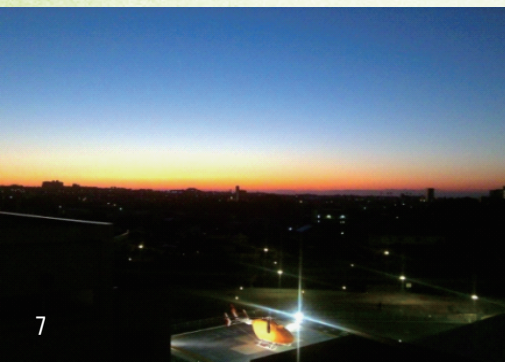
- ・「大学コンソーシアムやまぐち」の活動にリーディング大学として積極的に関わり、地域の歴史・文化の継承とともに、学校教育、社会教育の充実と発展に寄与します。
- ・地方自治体との包括的な連携協定を一層発展させ、人材交流機会の増大、施設・設備の相互運用の拡大などを実現し、互いに実りある連携事業を展開します。
- ・本学独自の「山口学」を構築し、その成果をもって地域の課題解決のための提言や、生涯学習や公開講座等による地域への『知』の還元などの「地方創生」に資する取り組みを組織的に展開します。
- ・教職大学院を中心に、山口県の教育委員会及び県下の他大学と連携・協働して、資質能力の高い教員の育成に寄与します。

○地域の産業への貢献

- ・地域課題(ニーズ)と大学資源(シーズ)のマッチングを行い、異分野連携チームやステークホルダーとの協働による研究プロジェクトを推進し、地域発ベンチャー創出の支援を強力に行い、地域活性化と地域イノベーションに尽力します。
- ・産業界等と協働して、社会人のキャリアアップに必要な高度かつ専門的な知識・技術・技能を身に付けるためのプログラムを構築し、地域ニーズの高い高度人材養成を図ります。
- ・地域の特性である産業構造や観光資源等を理解した行動力のある地域志向型の人材を育成するとともに、それら人材の地域への定着に寄与します。

○安全・安心な地域社会を実現

- ・山口県唯一の特定機能病院として、高度な医療を地域に提供するとともに、山口県の拠点病院及び三次救急病院として、高度救命救急医療の充実を図り、安心して暮らせる地域の実現に貢献します。
- ・動物医療センターを中心に、西日本における拠点二次診療施設として、動物と人の福祉に貢献します。
- ・植物や動物、微生物などの生物資源を有効利用し、生物との共存を図ることで、地域の豊かで安全な食とそれを取り巻く環境の実現に貢献します。
- ・防災・環境、人獣共通感染症等に関する研究や、大学の危機管理体制のノウハウを地域の行政、企業、住民に還元し、安全で安心して暮らせる地域づくりに貢献します。



ダイバーシティ・キャンパスの実現と グローバルリーダーの育成

山口大学は、留学生を含む全ての大学人と、地域の人々が、互いの歴史・文化・民族・言語・宗教などの違いを超えて、共感・共鳴・共奏できるダイバーシティ・キャンパスを目指します。

時空間を超えたこの“知の広場”で国内外の問題解決に繋がる『知』の創出を行うとともに、国籍を越えて「維新マインド」を持ち、世界、特にアジア地域の持続的な発展(サステナブル・アジア)に貢献し、日本発イノベーション(イノベーション・ジャパン)を生み出す人材を育成します。

Ⅱダイバーシティ・キャンパスを目指して

○グローバル化推進のための組織の充実

- ・「国際総合科学部」をエンジンの一つとして、大学全体のグローバル化を進めていきます。
- ・グローバル化に関する学内の諸機能を集約した新たな組織を設置し、統合的に推進します。
- ・日本人学生の留学、留学生の受入れ、研究者の交流、国際産学連携、広報活動などを推進するために、「海外オフィス」を連携機関と協力して拡充します。
- ・現地で活躍している在留邦人及び母国の発展に貢献している元留学生等による海外同窓会を組織化し、交流活動を展開することで、継続的でより質の高い国際交流を実現します。

○グローバル化のための取り組み

- ・国際水準の教育を提供するため、海外協定大学と共同して授業のナンバリング、デュアル・ディグリーやジョイント・ディグリー・プログラムを進めます。
- ・交換留学、短期留学プログラムの充実、インターンシップを含む日本企業への就職支援を行い、留学生にとって安心して学べる魅力ある留学先とします。
- ・留学生や日本人学生が OJT(On the Job Training) として大学の運営に参画できる制度を充実し、経済的な支援を行います。
- ・留学生と日本人学生による異文化接触による交流の場を創生するとともに、学内表示及び文書の多言語化を行い、キャンパス内環境のグローバル化を促進します。

- ・職員の海外研修の充実を図ることにより、海外からの留学生、留学を希望する日本人学生へのワンストップ・サービス機能をさらに充実します。
- ・外国人学生・研究者への生活面やメンタル面の支援を行い、宗教上の配慮を充実します。
- ・国際共同研究を推進し、山口大学の特色ある研究分野において、国際学術雑誌を発行するなど、研究活動の発信力を強化します。

○グローバル化を着実に進めるために

- ・教職員の意識改革を進めるために、地域貢献・国際貢献に関する活動の評価を行います。
- ・広報活動の強化を行い、海外同窓会と協働を進め、国内外への情報発信力を高めます。
- ・平成35年度の達成目標値を以下に掲げてその実現に取り組めます。
 - ①若手研究者の計画的海外派遣及び海外協定校との教員交流制を実施すること等により、外国人及び外国で学位を取得した専任教員数を300人以上にします。
 - ②多言語に対応したホームページを整備し広報活動を充実すること、就学・生活環境を整備すること、及び国際通用性のある教育プログラムを開発・提供することにより、外国人留学生数を1,000人以上にします。
 - ③入学直後に留学の意義・効果を印象づけて意欲を喚起するとともに、海外留学プログラムを開発・提供することにより、日本人学生の留学数を750人以上にします。

Future YAMAGUCHI UNIVERSITY vision 2015

「志」つなぎ伝える二百年



創基200周年

運 営

対話と信頼に基づく
ガバナンス体制を確立する

ビジョン実現のための運営方針

山口大学は、「教育」、「研究」、「地域連携」及び「グローバル化」のそれぞれの視点で掲げるビジョンを実現するため、業務の効率化・合理化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報公開・発信などのそれぞれの観点における運営方針を設定した上で、着実かつ円滑な大学運営を行います。

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化

○組織運営の改善

- ・学長のリーダーシップの下、組織運営面での合理化・効率化を図るため、IR機能の強化を図るとともに、案件毎に時限付きのプロジェクトチームを編成し、迅速な意思決定と機動的な運営を行います。
- ・大学運営の様々な場面において、外部有識者や企業、地域社会の声に積極的に耳を傾け、学生や卒業生、留学生と協働し一体となって大学を運営します。
- ・多様な媒体を活用し、時宜に適った情報を広く世界に発信・提供し続けます。
- ・行政機関、企業、地域社会、国際社会との交流を進め、互いの信頼関係の構築による大学運営を行います。
- ・教員、事務職員及び高度専門職等、それぞれの研修制度の充実と人事評価制度を再構築し、適正な評価の導入によって、個々の人材の能力とモチベーションを引き出し、教育研究の活性化と業務運営の円滑化を実現します。
- ・大学ビジョン実現のため、“年俸制や混合給与”など山口大学独自の制度を導入し、人事・給与制度の弾力化を図ります。
- ・官公庁やその他学外機関との教職員の人事交流を推進することにより、様々な経験やネットワークを持った多様な人材を養成し、組織の活性化や学外との協働体制の構築を図ります。

- ・学長のリーダーシップのもと「女性研究者支援室」を中心とした支援体制を充実し、女性研究者の労働環境の改善や教職員の意識改革を推進し、全教員に対する女性教員の比率30%以上を目指します。
- ・限られた資源（人材・資金・施設設備・学生定員・情報）を有効に活用するため、総合大学の特徴を活かして、学部及び研究科の枠を越えた改革を実施し、一部局ではなしえない大胆な発想により、学内資源の最適化を図ります。
- ・教員と職員の持つそれぞれの専門性に応じた役割を分担し、教員が教育研究に専念できる時間を十分に確保します。

○教育研究組織の見直し

- ・イノベーションを創出できる人材やグローバルな社会で活躍できる人材等の養成を推進するため、学士課程教育と大学院教育の連携の強化及び学部間、研究科間の垣根を越えた一体的な改革を進め、柔軟かつ不断に教育研究組織を見直します。
- ・地方自治体、企業、地域社会との連携を深め、知財教育や技術経営、東アジア研究等の強みを活かし、地方の創生を牽引します。

○事務等の効率化・合理化

- ・全ての事務職員の能力を最大限活用するため、事務組織を再構築することにより、教育・研究等を支援します。また、外部資金の獲得や地方自治体との連携を推進するため、フレキシブルでフットワークのよい事務体制をつくります。



Ⅱ 財務内容の改善

○外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加

- ・社会のニーズを広く察知し、大学のシーズを最大限に活用して、多様な『知』と『財』の獲得に努めることで、教育研究の活性化と学生支援及び社会貢献を充実します。
- ・「山口大学基金」の拡充を進め、大学の活動に主体的に取り組む学生や経済的に不安定な学生を支援するとともに、同窓生のみならず山口大学を愛する人々が集う「山口大学校友会」を創設します。
- ・健全な附属病院経営を行い、その収入により全国に先駆けて病院の再・再開発による高度化を進め、地域社会に対して、患者志向の高度で安全・安心な医療を提供します。
- ・多様な独自財源の確保と、本学の広報戦略に沿った独自の商品開発を進め、運営費交付金に対する独自財源の比率を高め、山口大学として自律的な運営を行うための財政的基盤を確立します。

○経費の抑制

- ・中長期的な予算戦略を立案し、学内予算の編成・配分・執行の仕組みや予算管理单位の抜本的な見直しや、恒常的な経費の抑制に努めます。

○資産の運用管理の改善

- ・大学の業務に支障のない範囲で、土地及び建物などを教育研究等に関するものには積極的に貸し付けを行うとともに、民間活力による事業展開なども含め資産の有効活用を努めます。また、効率的な法人運営のために、保有資産の不断の見直しを行い、不用資産については用途変更や処分を努めます。

Ⅲ 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供

○評価の充実

- ・大学の諸活動に係る自己点検を行い、その結果を蓄積・分析し、大学の意思決定に反映して、戦略的な運営を行います。

- ・認証評価や法人評価をはじめとした第三者評価を効率的かつ効果的に実施するための体制を整備し、外部の意見や評価結果を反映して、PDCAサイクルの中で活動の改善を進めます。

○情報公開や情報発信等の推進

- ・法令等において公表が求められている情報はもとより、大学の活動状況に係る情報について「大学ポートレート」を活用するなど積極的に発信し、地域や社会に向けた分かりやすい情報提供を行います。

Ⅳ 安全・安心、コンプライアンスの確立

○施設設備の整備・活用

- ・施設設備の整備計画を策定し、全学的な施設設備の有効活用を推進するとともに、民間企業等からの寄附をはじめとする多様な支援を受けて、教育研究施設の高度化とグローバル化への対応を進めます。

○安全管理

- ・学生、教職員に対する防災教育を行うとともに、他大学と連携した危機管理体制及び事業継続計画（BCP：Business Continuity Planning）を確立し、学生、教職員、さらには広く地域住民が集う日本一安全・安心な大学を実現します。

○法令遵守

- ・山口大学としての社会的責任の重さを教職員が認識し、学長の監督のもと組織と個人が連携して、情報セキュリティ対策の実施、経理事務の適正化、研究不正行為及び研究費不正使用の再発防止の徹底、法令に基づく適正な法人運営を行い、地域社会からの信頼を築くとともに、自らの誇りとします。

Future YAMAGUCHI UNIVERSITY vision 2015

「志」つなぎ伝える二百年



創基200周年



シンボルマークについて

三角形は山口大学の「山」の字形をイメージし、200年の歴史と伝統を持ってそびえ立つ大学の姿を表しています。また、曲線は山口大学の3本柱を意味しており、両端が鋭く知的な青色の線は「教育」を、上に向かって伸びる黄色の線は「研究」を、左右を繋ぐ緑色の線は「社会連携」をそれぞれ表しています。創基200周年を越えていくにあたり、山口大学が描いている将来像の意味が込められています。

制作者：吉澤奈見子さん（山口大学大学院理工学研究科博士前期課程2年：平成22年12月当時）



「志」つなぎ 伝える
二百年

キャッチフレーズについて

山口講堂から山口大学の歴史がスタートし、その「志」は200年を迎えようとする現在まで受け継がれています。この「志」を、これからもつなぎ、伝えていきたいという想いが込められています。

制作者：酒井藍さん（山口大学教育学部4年：平成22年12月当時）

創基200周年のホームページについて

創基200周年記念事業に関する情報を掲載しておりますので、ご覧ください。

<http://www.yamaguchi200.jp/>



国立大学法人山口大学

〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1

Tel: 083(933)5916

Fax: 083(933)5959

e-mail: sh041@yamaguchi-u.ac.jp

<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

2015年3月